

千葉県松戸市立 八ヶ崎第二小学校



継続的な家庭学習に e ライブラリ ～先生の見取りと励ましが意欲を高める～

八ヶ崎第二小学校では、「かしこく・やさしく・たくましく」を教育目標に掲げ、基礎・基本と学習習慣の定着を目指し、ICTを活用したさまざまな取り組みをしています。今回は、学校や家庭学習で活用している、eライブラリの実践をご紹介します。

授業での活用が、家庭学習のきっかけになる



▲ 学習カードの教材に沿って学習する

今回の2年生の授業は、eライブラリのドリルを小林校長先生お手製の学習カードに沿って自分で学習を進めます。児童は、解説教材やリトライ機能を使って繰り返し取り組み、100点が取れると、友達同士で見せ合いながら楽しそうに学習しています。

「定期的に使いや学習の進め方を練習することが大切です」と小林校長先生。eライブラリを活用した授業は、学習の楽しさや問題を解く達成感を得られ、主体的な家庭学習のきっかけになっているとのことです。

eライブラリを活用した学習教室の開催



▲ 単元・日にちごとに学習回数を書き込む学習カード

夏休みに1学期と前学年の内容を復習する学習教室を開催したところ、4日間で延べ200名以上の参加がありました。「予想以上の参加があり、運営に不安がありました。今までですと採点や説明などで担任にも負担がかかっていたのですが、eライブラリを活用すれば、自動採点の上、一問一問に解答解説がついているため少ない教員で運営が可能になりました」と小林校長先生。

学習履歴と学習カードから、取り組み状況を見取り、担任が励ましの声をかけることで、児童の学習意欲がより一層高まっているとのことです。

インタビュー eライブラリを自己学習と家庭学習で運用したきっかけ



今の児童には自ら進んで考え、今までの経験をもとに新しいことや困難なことに挑戦をすることが大切だと考えていますが、算数においては既習事項を理解していないと、進むことができない場合が多くあります。これまでも授業で既習事項の振り返りをしてきましたが、十分な時間を確保できていないのが現状です。

eライブラリは問題量が豊富な上、解答解説や確認問題に要点が丁寧に書かれており、既習事項をしっかりと補ってくれる教材が収録されています。これを自己学習や家庭学習で活用することによって既習事項を深めたり、時間がたつて忘れてしまった内容を思い出したりすることができ、基礎基本の定着に役立つと考え、運用を始めました。

取り組み状況の発信で、保護者の理解と協力を求める



八ヶ崎第二小学校では、学校ホームページに「家庭学習のすすめ」を開設し、eライブラリを活用した家庭学習の取り組み状況を掲載しています。

コロナ禍のため、保護者の来校が減り、直接話をする機会も減りました。そのため「家庭学習のすすめ」には、児童の学習状況や家庭学習の大切さを知ってもらいたいという気持ちと、保護者と連携して、児童の学習を支えていきたいという小林校長先生の思いが込められています。

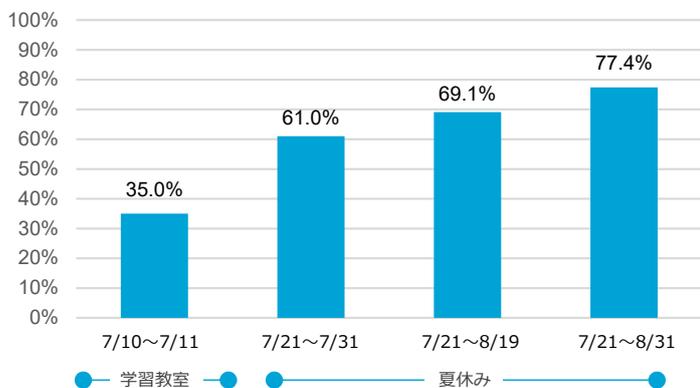
先生の工夫

- eライブラリで学習するときは、学習カードを併用し、学習した単元や学習回数などを参考に励ましの声をかける。および担任の先生が、児童の学習状況を見取りやすくする。
- 学習教室を開催するときは、先生方に負担をかけるのではなく、働き方改革を意識し、少人数で運営する。
- 学校ホームページに、家庭学習の取り組み状況を公開することで、保護者へ家庭学習の大切さを伝え、学校と家庭で連携して、児童の学力向上を図る。

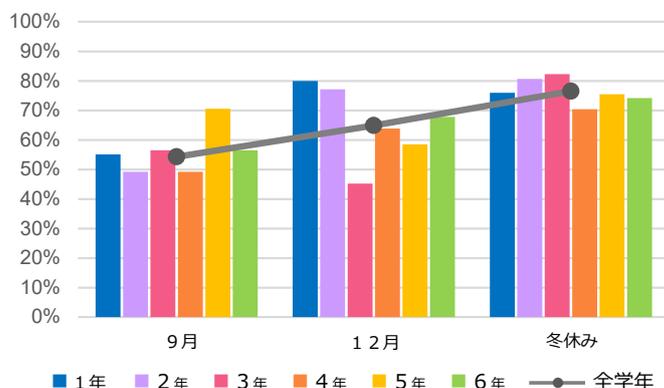
eライブラリの取り組み状況の推移

※ 結果の一部を掲載しています。

eライブラリの実施率
1学期～夏休み



各学年の家庭学習 実施率推移
2学期～夏休み



考察 学びへ向かう姿勢と学力の変化 ~ 今後の展望 ~

定期テストなどの分析から、一度理解しても数ヶ月後には学習内容を忘れてしまう児童が多いことがわかりました。昨年度、市から一人一台のタブレットが配布され、eライブラリの活用も始めましたが、今年度は各学級の取り組み以外に学校全体で週一回のモジュールの時間と毎月一回の土日の宿題で活用を図りました。そのため、児童も操作に慣れ、長期休みも家庭学習の利用が浸透してきています。

分析データからeライブラリの家庭学習を継続的に利用している学年ほど確認テストの結果がよくなっています。このことは基礎基本が着実に定着していると考えています。今後は分析した児童の弱点を、授業や家庭学習でeライブラリの活用によって補えるようにしていきたいと考えています。

※ 本紙の情報は取材当時（2021年度）のものです。